

2・2「情報セキュリティの日」 土居範久、辻井重男両教授に「功労者」表彰

土居範久・中央大学理工学部教授と辻井重男・中央大学研究機構教授（情報セキュリティ大学院大学学長）が、「情報セキュリティ

の日」の2月2日、初の功労者選ばれ、首相官邸での表彰式に出席した。

「情報セキュリティの日」は内閣官房の情報セ



辻井重男・中央大学研究機構教授（情報セキュリティ大学院大学学長）



土居範久・中央大学理工学部教授

キュリティ政策会議の提起を受け、ことし（06年度）から創設された。

子どもたちが描いた「ジャワ島中部地震」 インドネシア夏合宿の法・酒井ゼミが絵と写真展

06年5月、7月に起きたジャワ島中部地震の衝撃は、子どもたちの目と心に何を刻んだのだろう。インドネシアの小学生が描いた興味深い絵や写真が、昨年11月28日から一週間、図書館一階で展示され、目をひいた。展示したのは、法学部・酒井（由美子助教授）ゼミ。昨夏9月3日から16日までインドネシア合宿（スタディ・ツアー）を行い、ゼミ生が被災地のジョグジャカルタの小学校で現地

大学生と一緒にボランティアをした際に、子どもたちが描いてもらった絵だという。絵のほかに、ジャワ島中部地震の被害の様子や生活の様子、またゼミ生と現地の学生との交流の様子を撮った写真も。「展示会は準備不足で、納得のいくものとはいえなかったんですけどね」と控えめに語るのは、同ゼミの小林直人さん（法・法4年）と牧野美貴さん（法・政4年）だ。スマトラ沖地震（04年12月、

05年・3月）にも見舞われたが、訪れたジョグジャカルタの現地ではジャワ島中部地震による被害が格段に大きかったようだ。子どもたちの絵は、家や山、テントを描いたものが多い。小学校はテントで作られていた。「高学年には地震が起きたときの状況を、絵日記風に描いてもらいました」と小林さん。テントが描かれた絵の下には、インドネシア語で日記の文章がある。

辻井、土居両教授は、「21世紀COEプログラム」に認定された「電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ」の研究拠点校として、02年度から5年間、中央大学理工研究科を中心にした研究グループを率い、内外から高い評価を得るなどの功績が認められた。功労者には、両氏とともに金杉明信・NEC前社長（故人）ら合わせて4氏と1団体が選ばれた。



インドネシアの子どもたちのスケッチ展。下は現地の女子学生たちと記念撮影。ゼミ生も持参のスカーフを頭に巻きました



△ある日大きな揺れが起こりました。それから私たちはいま、夜は家族とテントで眠り、学校でもテントです▽（6年生）
 「低学年には自由に描いていいよと言ったのですが、やはり家の絵、テントの絵を描く子が多かったですね」
 ドラえもんを描いた絵もある。ドラえもんが向

の精神的ショックで、もっと落ち込んだり喋れなくなったりしているかと思っていたのですが、子どもたちはたくさんの笑顔をくれました。絵のほかにも、一緒に折り紙をしたり歌ったりもして。あつ、空手部のゼミ生の空手パフォーマンヌも大好評でした」（牧野さん）「小学校の先生が、地震後こんなに子どもたち

こうでは大人気なのだとか。「日本アニメやドラマが大人気でした。キムタクは男の子にもモテモテらしい」
 「現地の小学生は、私たちが思っていたよりもずっと前向きでした。環境は整っていませんでしたが、テントだとはいえ、行く学校がある。って、こののはやっぱり大きくて、地震で

が嬉しそうにしているのを見たのは初めて、と言ってくれたんです。とても嬉しかったですね（小林さん）
 約2週間の間に、小学校訪問のほかにも、大学への訪問、現地学生とのディスカッション、イスラム学生の寄宿舎であるプサントレンへの宿泊……。また、イスラムのお祈りをさせてもらったり、女子は被り物を頭に被るなど、宗教文化にも肌で触れることができました」と牧野さん。そして「印象的なのはマンデイです」。

マンデイとは、「水浴び」のこと。寄宿舎では、毎晩桶に汲んだ冷水を被って身体を洗った。身体も心も、シヤンとなったことだろう。「現地の大学生と、対等に一緒に活動することができて、今まで遠い存在だったインドネシアという国が、とても近くに感じられるようになりました。ニュースでインドネシアのことを

やっていたりすると、自然に目を向けてしまったりするんです」と牧野さん。そして小林さんは、「イスラム教のところだから、旅行前はメディアの影響もあり正直少しいまいましいイメージがあったんです。だけど実際はフレンドリーで、驚くほど親切にもてなしてくれて。イメージはガラリと変わりました」と報道との落差も。ニュースなどで関心があるものは、「自分で調べてみよう」と思うようになったという。
 記者も途中参加したゼミ生の一人だが、学びの多かったインドネシア合宿。ゼミ生の旅行感想紀を載せたホームページも公開中です。
 HPアドレス：http://www.geocities.jp/naochan_magazine/sakaiseminar.html
 （学生記者 山崎綾香 11法学部3年）

明石康元国連事務次長が講演

「国連自体は無力です。各国の協力が不可欠」

「近年国際連合に対する絶望の声が高まっています。その考えは根本から間違っているのです。国連自体にはなんの力もありません」

元国連事務次長の明石



明石康氏

康さんが12月7日、Cスクウェアア中ホールで講演した。タイトルは「国連・安保理・日本——国際化時代における日本の役割」。1時間半にわたり、明石さんは自己の体験談を織りまぜて、国

連の動きとそれに対する日本の取るべき姿勢などを、中大生に丁寧な、ときに熱く語った。

新国連事務総長に就任した潘基文氏（韓国）とも面識があり、「活躍を期待したい」と述べるとともに、日本の国連観について、「国連の力が過大評価されてい

るように思います」と指摘した。「国連自体に力はないのです」と続け、「各国が主体性を持ち、強化していかないと国連は機能しません。日本を含めた加盟国はそのことを踏まえ、日々努力していかねばならないのです」と語った。

一方で、国連安保理常任理事国への日本の加入問題について、明石さんは「常任理事国がどういうものか、国民にしっかり伝わっておらず、国民の理解が十分と

はいえないと思います」と述べ、再び各国への働きかけを始めた政府・外務省の動きには慎重な考えを示した。

講演のあとの質疑では、会場から、「国連職員をめぐらず学生も多い。専門的な勉強と同時に教養部分の基礎力が必要なのではないかと明石さんからも話してほしい」という教える側からの要望なども。中ホールはほぼ満員の盛況だった。（文学部3年 小林誠和）

住田裕子弁護士も中大で講演 「コミュニケーション力と柔軟思考が大事」

住田裕子弁護士が、12月6日、多摩キャンパスで講演した（英米法研究会主催）。「21世紀を担う若者へのメッセージ」と題して、「困難な状況に置かれると、人は伸びる。苦しいことも乗り越えられる可能性が広が

る」と話した。ワインレッドのスーツに黒パンツというシックな姿。日本テレビの「行列のできる法律相談所」でおなじみの弁護士登壇に、会場から大拍手。会場には学部生のほか中高年の姿も見られた。

住田さんは「授業をサボって来てくれた人もいるのかな」と笑わせたり、テレビ番組の裏話をするなど、やはり話上手。昭和54年に東京地検検事に任官。その後、女性初の法務省民事局付検事と

して借地借家法など民法の改正を担当した。さらに全省庁初の女性法務大臣秘書官にも抜擢された。当時検事の仕事は修習生に不人気だったという。それに雇用機会均等法が施行されてい



住田裕子弁護士

なかつた時代。女性がキャリアアップすることは困難だった。「ここは男の世界だからね」と任官してすぐに特捜部長に言われた話もまじえ、「それでも自分の信念を貫こう、とずっと

思っていた。そういう強い気持ちを持つことは大事」と振り返った。

弁護士に転向して、整理回収機構の法律顧問に就任した。いくつもの修羅場をくぐりぬけて、メディアにも登場。その中で考えるようになったことがあるという。「コミュニケーション力」である。

「相手の言葉を聞いて、自分の言葉で答える——言葉のキャッチボールをきち

んとできることが、社会に出てから真に必要とされる。何か問題があったときに、いかに誠実に自分の言葉で相手に対応できるか。『ありがとう』『ごめんなさい』という当たり前の言葉も見直したい。自分の弱点を客観的に見据えられれば、辛いことに打ち勝てる」と、情熱的に語りかけた。

質疑応答の中で、法科大学院へ進むという学生へのコメントはこうだった。

「社会を的確に知ること、洞察力を高めることが1番大事。法律の勉強だけではダメ。美術、音楽、映画など何でもよい。とにかくいろいろな活動をjして柔軟な発想の出来る頭を作ること。その上で自らのリーガルマインドに基づいた法律のもののさしを作つて、具体的なケースをあてはめてくださ

い」
 (学生記者 池田園子 11歳 学部3年)



学部・大学院の在学生のみなさんへ



キャンパスツアーのガイドを募集しています

キャンパスを訪れる方々に、中央大学をもっと知ってもらい、中央大学をもっと好きになってもらうための仕事、キャンパスツアーのガイドを募集しています(ガイドの後に謝礼をお渡しします)。

詳細は、下記までお問い合わせください。なお、希望者は必ず事前にご連絡ください。

お問い合わせ先：中央大学 キャンパスツアー担当まで

Tel：042-674-2144

まずは、お電話・メールでご連絡ください。

※2007年4月5日～4月27日の間に個別説明・面接を実施します。